

関係委員意見聴取書面	
関係委員 (敬称略)	(所属) 東北鳥類研究所 所長
	(氏名) 由井 正敏
聴取日	令和 6 年 6 月 26 日 (水)
聴取者	環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 高木 審査官
要領 2. (2) 利害関係者の除外	
・意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。 <div style="display: flex; justify-content: flex-end; align-items: center;"> 利害関係 <div style="margin: 0 10px;">有</div> ・ <div style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">無</div> </div>	
要領 2. (3) 秘密保持の承諾	
・環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。 <div style="display: flex; justify-content: flex-end; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">承諾</div> ・ <div style="margin-left: 20px;">非承諾</div> </div>	
<関係委員意見概要>	
オジロワシについて	<ul style="list-style-type: none"> ・1号機については予測衝突個体数が特に大きいため配置を見直すべき。それ以外の風力発電設備についてもブレード塗装や目玉シール貼付等の環境保全措置を稼働前から実施することが望ましく、特に単年の予測衝突個体数が高くなっている2号機及び5号機については必要性が高い。 ・予測衝突個体数について、令和4年と令和5年の差が大きい。準備書の段階においては2年間平均で評価することはある程度やむを得ないが、今後20年稼働することを踏まえると北海道へのオジロワシ渡来数や近隣の漁港の漁獲量の変動等との関連性を評価し、ある程度の傾向を捉えるべき。 ・予測衝突個体数の評価パラメータに観測時間が入っていない。例えば調査の観測時間が8時間であれば日中平均の12時間に補正して予測衝突個体数を算出する必要があるので、観測時間をパラメータに記載し、補正を行っていないのであれば補正すべき。
クマタカについて	<ul style="list-style-type: none"> ・配置の見直しを行う場合は、「風力発電事業におけるクマタカ・チュウヒに関する環境影響評価の基本的考え方(案)」等に基づき、クマタカへの環境影響が懸念される配置となっていないかを確認する必要がある。